



ごみ焼却は効率的？

先日、ハノーファーにある EEW（直訳すると「ごみからエネルギー」）社のごみ焼却場を訪ねた。ハノーファー市周辺の 21 市町村、110 万人地域からハノーファー清掃公社（通称 AHA）が集めた家庭ごみは、前回紹介した AHA の機械生物分解処理施設に年間 10 万 t、EEW 焼却場に 25 万 t が運び込まれる。前回の記事で、分別して残りのものだけ焼却と書いたけれど、それは間違い。焼却のためにごみは持ち込まれている。

ドイツ全土にごみ焼却場は 63 基あり、EEW の焼却場はそのうち 19 基となる。同社は「焼却とはエネルギーを生み出すこと」という立場で、もともとエーオンというドイツの大手電力会社の子会社で、その後スウェーデンの会社を買収されたが、2015 年末に中国の会社を買われた。

ごみの持ち込み場所は、1 万 m³ の空間になっており、1 週間分のごみ、約 5000 t 分が入る。吸入弁により、ほこりは建物内に吸い込まれるため、屋外は埃っぽくならない。会社によると家庭ごみの成分は、水分 30%、かすや灰など燃えないものが 25%、焼却可能物は 45% だという。AHA の機械生物分解処理施設の処理では 70 - 80% は水分が必要となるため水を加えるが、水を加えると汚染水が出るため、その汚染水をきれいにする作業が必要となる。処理のあと出てくるのはメタンガスで、結局それは燃やす。処理費は 1 トンあたり 160 - 170 ユーロだという。

一方、焼却コストは 1 t あたり 80 - 90 ユーロと安い。EEW の担当者は「どうせメタンガスだって燃やすのだから、それなら最初からごみを燃やした方が効率が良い」と話す。焼却により、年間 16 万 5000 MWh の電力が生まれ、4 万 7000 世帯分をまかなう。ハノーファー地域は 50 万世帯だから、10 分の 1 だ。年間稼働時間は 8760 時間で、稼働率は 92 から 94% と自慢する。焼却かすは別会社に売却し、混じっている金属などはそこで取り除かれ再利用される。焼却はごみ 1 トンあたり 60 - 100 ユーロで請け負っており、独立採算としている。

ごみ焼却炉は大きいですが、その設備の 3 分の 2 は排出ガスをきれいにするもの。排出ガスの測定データは焼却所の制御室と、管轄の役場に直接送られるとともに、焼却場前の道路に設置されたパネルに表示されている。情報公開が大事だとする。

焼却場を訪ねるといつも「焼却はエネルギーを利用する最高の手段だ」という話を聞く。2 月にデュッセルドルフの焼却場を訪ねたとき、「数年前から法律改正により、ごみ焼却で生まれるエネルギーの半分は再生可能エネルギーとみなされるようになった。しかし私にとってごみはごみであり、変な気がする」とのこと。ごみはエネルギーなのか、意見の分かれるところである。

焼却場を訪ねるといつも「焼却はエネルギーを利用する最高の手段だ」という話を聞く。2 月にデュッセルドルフの焼却場を訪ねたとき、「数年前から法律改正により、ごみ焼却で生まれるエネルギーの半分は再生可能エネルギーとみなされるようになった。しかし私にとってごみはごみであり、変な気がする」とのこと。ごみはエネルギーなのか、意見の分かれるところである。

焼却場を訪ねるといつも「焼却はエネルギーを利用する最高の手段だ」という話を聞く。2 月にデュッセルドルフの焼却場を訪ねたとき、「数年前から法律改正により、ごみ焼却で生まれるエネルギーの半分は再生可能エネルギーとみなされるようになった。しかし私にとってごみはごみであり、変な気がする」とのこと。ごみはエネルギーなのか、意見の分かれるところである。

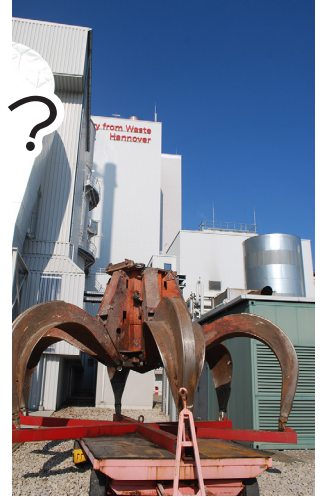
ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



明はカトリック系の小学校に通っているため、週 2 回カトリック教の授業があります。パパがギリシア人とドイツ人のハーフなので、さらに選択科目でギリシア正教の授業も受けています。つまり週に 3 回、宗教の授業があるというわけ。先日、急にギリシア正教の経典を暗唱し始めて驚きました。ドイツではあまり暗記はしないのですが、こういうところに暗記能力を使っているのね。授業では経典を読んだり、ビデオを見たり、塗り絵をしたりと、聖書の中の物語を楽しむ時間となっているようです。

幼稚園もたまたまカトリック系だったので、明は 2 歳のころから「パパとママはヨーゼフとマリアで、生まれる子はイエス」というおままごとをしていました。うちは洗礼もしてないいわゆる無宗教なのですが、宗教に触れるのは倫理の授業と同じではないかと見守っています。



焼却場の建物の前にごみをつかむクレーンの先の実物が置いてある